

## 教育研究実績票

教員氏名	職位（実務家教員の場合（実務家）と記入）	
石原 朗子	教授	
担当授業科目（過去5年間に担当した科目）		
教育社会学特論，特別講義，プロジェクト研究Ⅰ・Ⅱ，教育実地演習，教育実践演習，教育実践研究（オムニバス） （以上、教育実践研究科）、研究方法論（以上教育学研究科修士課程） 特別講究Ⅱ（高等教育の社会学），研究方法特別演習Ⅶ（以上、教育学研究科博士後期課程）、		
研究業績あるいは実務経験について（過去5年間）		
教育研究業績	年月	概要
1 著書		
1. 『通信制高校のすべて－「いつでも、どこでも、だれでも」の学校』	2017年5月 （増補版： 2018年12月）	第十章を担当。社会や教育上の出来事と高校通信教育がどのように関わるかを踏まえ、高校通信教育の歴史を論じた。（手島純編著，彩流社）
2 学術論文（単著，筆頭著者のみ）		
1. 「誰が大学通信教育に学ぶのか－入学者の変化に見る高等教育と社会－」	2019年3月	大学通信教育の入学者の変化を私立大学通信教育教会の入学者調査から分析、社会変化との関わりを論じた。（大学アドミニストレーション研究第9号，pp. 1-14，共著）
2. 「学校通信教育の研究動向に関する研究：教育的主題の変化に基づく高校・大学の包括的理解」	2019年6月	高校・大学通信教育の研究動向について、日本通信教育学会の70年間の研究論集とその他学術雑誌の研究動向から分析をした。（日本通信教育学会平成29年度研究論集，pp. 29-45，共著）
3. 「教育系専門職の指導における「仕事経験の理論的整理」の観点に関する考察」	2020年3月	星槎大学学内共同研究を行った大学院教育のインタビュー調査に基づき、教育系専門職大学院の教育の在り方を考察した。（星槎大学大学院紀要第1巻第1号，pp. 17-35）
4. 「学校通信教育の現状と課題（1）－大学を中心に－ 「学校通信教育の現状と課題（2）－高校を中心に－」	2021年3月	高校・大学通信教育において10年以上勤務した教員へのインタビュー調査により、学校通信教育の変遷や社会的機能を考察した。（1）が大学関係、（2）が高校関係と総括的議論である。 （いずれも星槎大学大学院紀要第2巻第2号， （1）pp. 55-72/（2）pp. 73-91）
5. 「通信制大学・短大への進学動向に関する考察－高校新卒者に焦点を当てて－」	2021年6月	学校基本調査を活用、高校新卒者で直接、通信制大学・短大に進学する者の特徴を描いた。（日本通信教育学会令和2年度研究論集，pp. 31-50）
3 その他（学会発表，発表筆頭者のみ）		
1. 「通信教育は『教育』を開放できたか－通信教育の70年－」シンポジウム企画運営	2017年10月	通信教育制度化70周年の記念シンポジウムにて古壕典洋とともに企画運営、司会を務めた。（日本通信教育学会第65回研究協議会）
2. 「ディプロマ・ポリシーに見る大学通信教育の現状と課題－通学制との比較から－」	2018年6月	通信制大学のDPについて、通学制との比較から論じた。（日本高等教育学会第21回大会）
3. 「研究動向に見る学校通信教育－学会内外の比較分析から－」	2018年11月	学術論文2のもととなる学会発表（日本通信教育学会第66回研究協議会）
4. 「通信制高校・大学の社会的機能の変化－教員インタビューの分析から－」	2019年12月	学術論文4のもととなる学会発表（日本通信教育学会第67回研究協議会）